

政治の話をするのが当たり前の社会へ

宮崎東諸県支会 代表 花岡 誠

「子ども同士で政治の話をするのが普通!？」

何気なく、ニュースを見ていたときでした。自分とのあまりの差に、そして日本との大きな差に驚いて思わず声が出たのです。

そのニュースとは、若い世代が政治に高い関心を持っていると言われるノルウェーの高校で行われる「学校選挙」を紹介したものでした。学校選挙とはいわゆる模擬投票のことで、「校庭で政治の話をしよう」という標語が掲げられています。学校選挙の期間中は、高校に各政党の政治家が招かれて生徒達を前に政治討論をするほか、高校生が校内に設けられた各政党のブースで政策などについて質問をし、各政党の主張や取り組みの比較などを行います。そして各自が支持しようと考えた政党に投票するのです。選挙権がない高校生の投票であるにもかかわらず、模擬投票の結果は各政党の党首も注視しており、メディアで大きく報道されるといいます。それは、高校生が未来の有権者であるからです。

1980年代に始まったノルウェーのこうした主権者教育の効果は、総選挙の投票率が80%近くという非常に高い数字となって現れています。わが国で昨年10月31日に行われた衆議院議員総選挙の投票率は55.93%しかないというのに。

「選挙に行きましょう」。そんな標語をよく耳にしながらも、大学を卒業するまで一度も投票所へ足を運んだことがなかった自分。周りを見ても、高校・大学時代の友人にも投票所へ足を運んだ者はいませんでした。「自分の一票では世の中を変えることはできない」と思ったわけではありません。無関心。そのときの自分たちは「選挙なんて自分たちには関係ない」と思っていたのです。

この差はどうして生まれるんだろう。そう思い、初めて選挙・政治について考えを巡らせてみました。インターネットが普及している現代、私たちはスマートフォンやパソコンでいつでも、好きなものを見たり調べたりすることができます。政治のような難しく感じる話題であっても簡単に調べることができます。しかし現実には、調べようとする人はそう多くないと想像します。私自身、大学を卒業するまで朝のニュースか試験対策の勉強ぐらいでしか政治に触れることはありませんでした。

家族や友達と政治に関する話をしたことはあったでしょうか。大人が話しているのを、なんだか難しい話しをしているなあと思った記憶がぼんやりとあるだけです。SNSで社会の変革やSDGsをテーマに盛んに発信している若者の

投稿を見たことはあります。しかし、自分には遠い存在のような気がして、次々に流れてくる新しい情報の渦に巻き込まれ、そんな投稿があったことすら忘れてしまうのです。

では、どうすれば私のような人でも政治に関心を抱き、投票という行動を起こすことができるのか。

その答えは「政治、そして選挙が身近なことであると実感できること」「自分の一票に影響力があると知ること」ではないでしょうか。そのためには、ノルウェーをはじめとする北欧諸国を見習って、子どもたちから政治や選挙権について学ぶことから始める必要があります。模擬投票のような取り組みを日本でもぜひ行うべきです。子どもたちから政治や選挙について話すのが当たり前になる教育こそ、未来の有権者の投票率を大きく上げるために必要なことです。

理解が深まれば、行動が生まれます。今の若い世代はZ世代といわれ、特に社会貢献への意識が高い傾向があるとされます。先に述べたような主権者教育があれば、若者の多くが「自分の意見で、行動で、社会をよりよく変えられる」と希望を持つことができるでしょう。少なくとも、政治への無関心を減らすことができます。

さて、大学生まで政治に無関心だった私にも、最近、無関心ではいられないと考えさせられる出来事がありました。私は昨年四月から綾町役場の農林振興課に務めており、農地関連の補助金や有害鳥獣対策の業務を担当しています。

地元の農家さんと話をしていたときです。「補助金の対象になるための条件が自分には厳しすぎるから、農作物がやられるのは仕方ない。来年はもう何も作らないかもしれない」。それは、鳥獣被害にあった農家さんが絞り出すようにつぶやいた言葉でした。ショックでした。どのような言葉をかければよいのか分かりませんでした。

少し前の私であればこの悲しい気持ちのまま何の行動もできず終わってしまいました。ですが今は違います。なぜなら選挙に行くことが何かを変える一歩だと知ったからです。多くの農家さんや職場の先輩と農業の未来について話しをするなかで、選挙や政治に以前より関心を持つことができているからです。「自分には関係ない」。そう考えるのではなく、まずは自分の興味関心のある分野で政治について考えてみるのが大事だと気付いたからです。

最後になりますが、若者の皆さんに伝えたいことがあります。自分が感じている社会への興味や不安を政治について考える第一歩として、だれかと話してみたいのです。家族とでもいい。友達や同僚とでもいい。一緒に考え、議論しましょう。世の中へ発信していきましょう。政治の話をするのが当たり前の社会にしていきたいと思います。未来を担う私たちの力で、皆が幸せを感じられる社会づくりに貢献しようではありませんか。